

目的 本来の日本人の食生活は四季の味を楽しむと同時に季節に適した食事の工夫には非常にすぐれたものがあった。しかし最近是我々周知の背景により季節感はや元より食事によるきめ細かな健康管理は殆んど姿をとぎめないほどに変容した。現在の我々日本人は健康管理のために保健薬や医薬品を多く服用し逆にそれらの副作用や弊害が問題となりつつある。そこで、長年に亘って食による健康管理の範ともすべき中国人の食形態が最もよくうけつがれている香港の地を選びその日常食の背景を調査することにした。

方法 S41～54の各期に香港の殆んどマーケットに行き食品の状況の實際を視察した。日常購入する食品について、その効用と利用度を公営アパート（九龍蘇屋村蘭花樓）居住者中のS8世帯（時に26世帯）を対照に季節ごとにたずねた。同時にその食形態はだれに教えられたかをたずねてみた。香港ほどの国際都市の中にあつてそこに住む中国人が確固と伝統を守りつづけている不思議を思い外來の食品に対する考えをたずね、尚その背景の一つのあらわれとして各種新聞の食に関するコラムを在香港中に収集を行った。

結果 第一に歴史的背景があげられる。中でも植民地であることにより中国人らしい生き方の特徴が強く残っているといえる。前記の居住者の話によると年令別状況別く旅行中であるとか、職業による特殊性、例えば散髪を業とする人は人毛を肺に吸うことが健康上の問題につながるなど）による食のルールには牧畜にいとまがなく中国食の深さの底知れぬものを感じた。今回は背景の一つとして香港の人々の求める日常食がマーケットにおいてどんな形で売られているかを数例を挙げて報告したい。